

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

2019 年度

法人名	社会福祉法人 七野会	代表者	井上ひろみ	法人・ 事業所 の特徴	利用者の半数以上が独居。利用される方は生活全般において支援が必要な方、介護負担の軽減が必要な方と様々であるが、1日の訪問回数が現在平均31.8と多いのが特徴。法人理念である、『その人らしく』地域や住み慣れた自宅ですら暮らし続けられる事を大切に、柔軟で小回りの利くサービスを提供できるよう、日々援助にあたっている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 和泉の家	管理者	北浦多恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	2人	0人	人	1人	1人	15人	3人	22人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	自己評価、サービス評価で確認した計画や目標については、会議の時にこまめに確認できるように時間をとる。	こまめには確認できておらず。サービス評価までに1度会議内で確認している。	特になし	引き続き計画や目標については、会議内等でこまめに確認できるようにする。目に入る場所に貼り、意識を持てるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	フロア的环境整備を行う。置き場所を決める、きちんと直す意識を持つことと、材料等は役割を明確にし、誰がいつまでにどうするか、役割を決める。	少しずつ進めたり、意識をしているが、徹底は出来ていない。	事務所に人がいるので入りやすいと思う。ささえ愛の会ののぼり旗を見て時折地域の方の出入りはある。乗降時はどうしても駐車することになる。	引き続きの環境整備と、物の置き場所を決めてきちんと直す意識を持つ。行事等で使用した物品や材料は行事担当が責任をもって片付ける。
C. 事業所と地域のかかわり	引き続き地域の行事に参加。行事を絞って、職員が出来るだけ多く参加できるように出勤者を集中できるように。掲示板の活用	土日祝の行事となると勤務を調整することが難しかった。掲示板の活用までには至らなかった。	地域の催しに参加しているのはわかる。他事業所は、まめに便りを発信、地域の掃除や下請け、お弁当屋の活用などはしている。	地域の行事に参加していく。地域のお店を利用してもらい、地域に出でいけるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	引き続き、地域の資源、場所を利用し、また地域とご利用者の暮らしが途切れないよう、なじみの店や人に会いに行けるようにする	ご利用者の馴染みの店が無くなっていたりする。難しいところもあった。	特になし	家族や友人の協力も得つつ、その人のコミュニティを、まず知っていく。その上でその人に合った外の出方を考える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	色々な職員に参加してもらうことで、顔を知ってもらう機会にする。情報共有し連携を引き続き行う。	あまりできなかった。	運営推進会議にて情報共有出来ている。資料もわかりやすい。より多くの人に参加してもらっては。	管理者+もう1人職員が参加するようにする。ご利用者の参加も願います。
F. 事業所の防災・災害対策	引き続き、出来る範囲での物品や備蓄を整えていくことと、地域の防災訓練へ参加させてもらう。	備蓄を継続中。地域の防災訓練にはまだ参加できていない。緊急連絡ファイルを作成中。	ここに施設があること自体が大きいのでは（拠点として）自主防災訓練等参加すると情報が得られる。	緊急連絡ファイルを完成させる。地域の防災訓練に参加できるようにする。

